

施策評価の実施方法

1. 施策評価の概要

(1) 対象施策及び事業

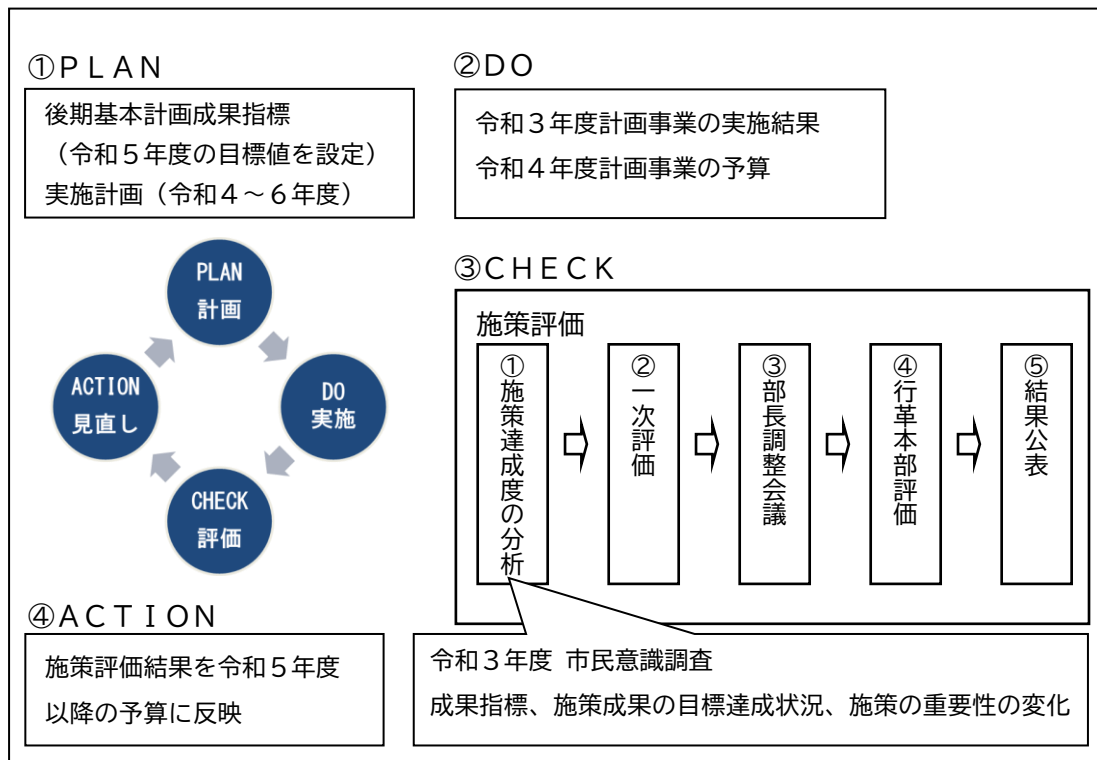
評価対象は第2次総合計画（後期基本計画）に掲げた34施策及び実施計画で進行管理している184の主要事務事業（令和4年度現在）です。

(2) 成果指標と目標値

施策評価では、第2次総合計画（後期基本計画）に掲げた成果指標を用いることを基本としますが、他に的確な指標がある場合等は変更します。また指標が数値化されていない施策がある場合は、定性的な記述と併せて達成度を総合的に評価するといった工夫を行います。

(3) 評価の流れ

以下のとおり、実施しました。



図表1 評価の流れ

① 施策達成度の分析

施策の達成度については、第2次総合計画（後期基本計画）に掲げた成果指標の実績値を調べるとともに、市民意識調査を実施して、市民の満足度と重要度を把握します。

成果指標は第2次総合計画（後期基本計画）に掲げた項目を基本としますが、数値化が難しいものや、他に適切な指標がある場合は、適宜修正を加えていくこととします。

② 一次評価

施策を主に担当する主管課長と副次的に担当する関係課長が協議して、一次評価を行います。施策ごとに「施策の成果と課題」や「今後の方針」を整理し、総合評価を行うとともに、各施策内の主要事務事業の施策への貢献度判定を行います。

③ 部長調整会議

一次評価を行った評価シートの点検等を行い、当該施策の方向性や施策内の事務事業に関する予算の方向性を確認します。高度な視点から、現実的な対応を協議します。

令和4年度は、以下のポイントを踏まえ、協議しました。

◆ ポイント1 第3次総合計画の策定

- ・社会経済情勢等の変化を捉えた評価（DX、少子高齢化等）
- ・子どもがど真ん中のまちづくり、ゼロカーボンシティ、「健康」応援都市の実現との関係性

◆ ポイント2 厳しい財政状況

- ・施策にメリハリをつけることで、コストを効率化・重点化
- ・行財政改革の更なる推進

◆ ポイント3 国・都の動向

<国の動向>

- ・新型コロナウイルス感染症への対応
- ・「デジタル田園都市国家構想」による地方活性化
- ・2050年カーボンニュートラルの実現
- ・全ての人が生きがいを感じられる社会の実現
- ・防災・減災、国土強靱化の推進など

<都の動向>

- ・「サステナブル・リカバリー」の取組を推進
- ・チルドレンファーストの社会の実現など

④ 行革本部評価

部長調整会議の内容を踏まえ、最終的な評価を行います。

(4) 評価の時期

施策評価は、第2次総合計画（後期基本計画）の進行管理という役割も担っています。

また、評価結果を予算編成に活用できるよう、予算編成作業が始まるまでに最終評価を行うこととしています。

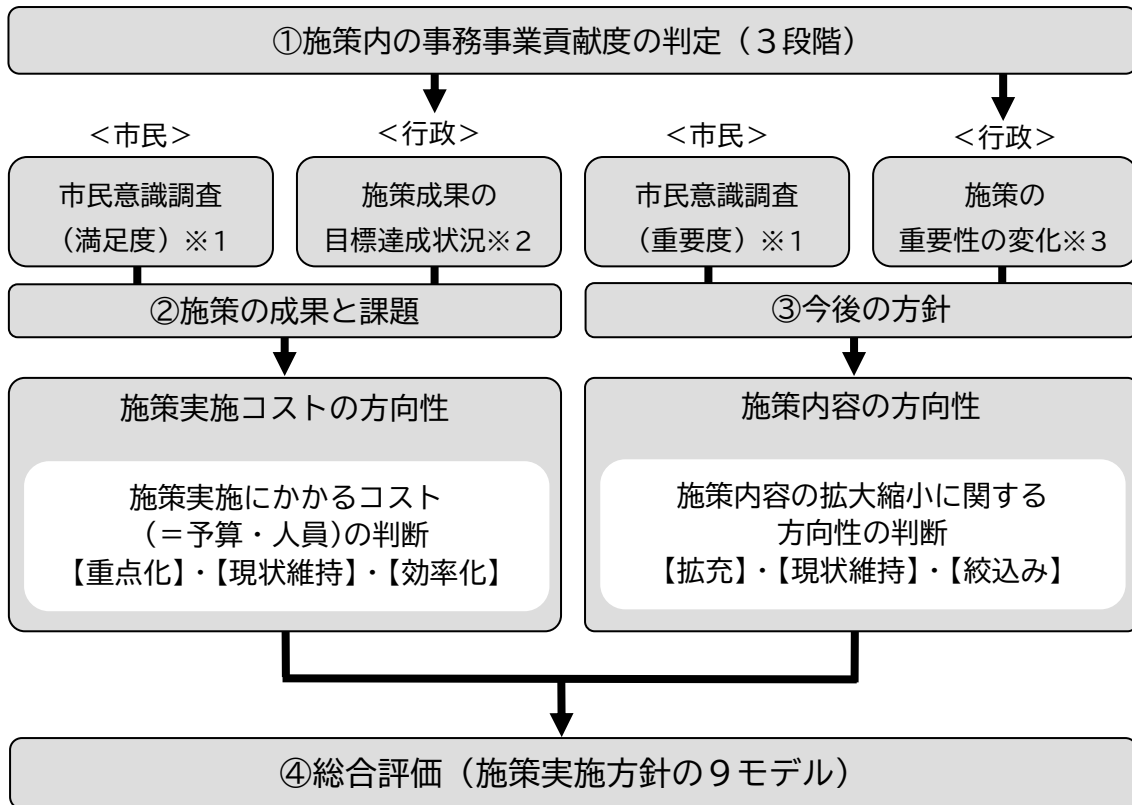
(5) 評価結果の公表

評価結果は、市の情報公開コーナーやホームページ等で公表します。評価結果の公表に当たっては、市民への説明責任が果たせるよう、分かりやすい表現に努めます。

2. 評価の仕組み

(1) 判定の方法

評価は「①施策内の事務事業貢献度の判定」「②施策の成果と課題」「③今後の方針」を総合的に判断し、「④総合評価」を行います。全体の流れを以下に示します。



※1 「市民意識調査（満足度・重要度）」は、無作為に抽出した5,000人に対する市民意識調査の結果を基に客観的に判定されます。

※2 「施策成果の目標達成状況」は、第2次総合計画（後期基本計画）の各施策に掲げた目標値と評価実施年度における直近の実績値から主管課長が判定します。

※3 「施策の重要性の変化」は、主管課長が「施策成果の目標達成状況」や社会経済情勢の変化を勘案して判定します。

図表2 判定の方法

(2) 総合評価の考え方

総合評価は、主要事務事業の施策への「貢献度」を判定しつつ、「施策実施コストの方向性」と「施策内容の方向性」をそれぞれ評価した上で、その結果から「施策実施方針」を導き出す仕組みとします。

<施策内の主要事務事業貢献度の判定>

主要事務事業貢献度については、施策内の各主要事務事業が施策目標の達成に向けて果たす役割の大きさを下記基準のとおり3段階で判定します。

判定基準	事後評価
A	施策目標達成のため当該事務事業が他の事務事業と比較して、貢献する度合いが極めて高い事業である。
B	施策目標達成のため当該事務事業が相応に貢献する事業である。
C	施策目標達成のための事務事業としては見直しが必要な事業である。

図表3 施策内の主要事務事業貢献度の判定基準

<施策実施コストの方向性>

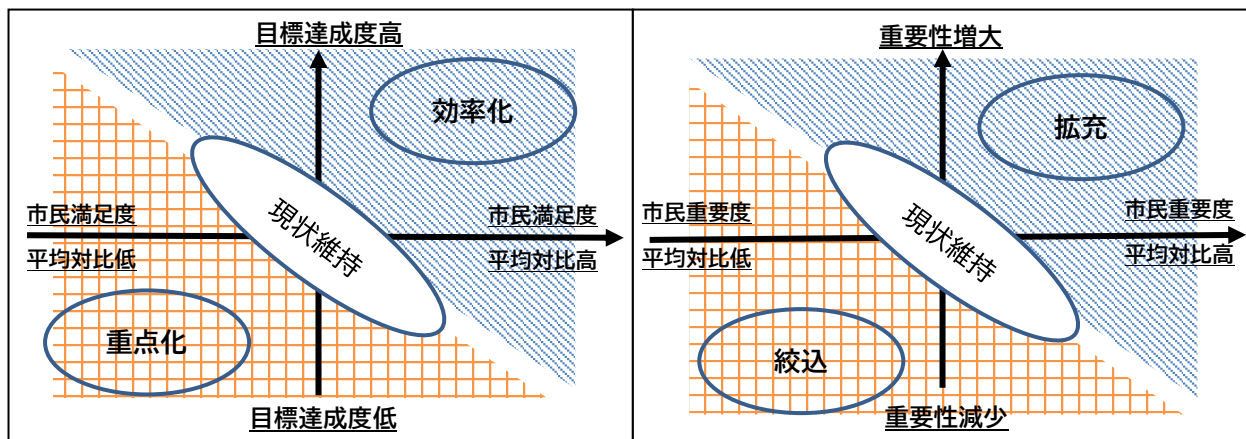
各施策分野における今後の施策実施コストの方向性については、市民意識調査における満足度をベースに、施策成果の目標の達成状況を加味して判断しています。

<施策内容の方向性>

各施策分野における今後の施策内容の方向性については、市民意識調査における重要度をベースに、施策の重要性の変化（国や都の制度変更や計画策定時の予測を上回る社会状況の変化に伴うもの）を加味して判断しています。

【施策実施コストの方向性】

【施策内容の方向性】



図表7 施策実施コスト・施策内容の方向性の類型化モデル

施策評価における「現状維持」は、「現在の計画水準を維持すること」を意味します。前年度のコストや施策内容をそのまま維持するという意味ではありません。

これは、評価の対象である「施策」が、建設工事やシステム構築など一時的な事業も含めた複数の事務事業から成り立っていることから、前年度予算との対比で評価することが難しいからです。

< 施策実施方針の9モデル >

それぞれ3つの類型で評価される「施策実施コストの方向性」と「施策内容の方向性」とを掛け合わせて、次の9モデルに分類します。

		施策実施コストの方向性		
		重点化 (満足度低/達成率低)	現状維持	効率化 (満足度高/達成率高)
施策内容の方向性	拡充 (重要度高/重要性増)	【Ⅰ】 成果の向上を図るため、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅱ】 成果の向上を図りつつ、コストは現状維持する施策領域	【Ⅲ】 成果の向上を図りつつ、コストを抑制する施策領域
	現状維持	【Ⅳ】 成果を維持するため、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅴ】 成果を維持しつつ、コストも現状維持する施策領域	【Ⅵ】 成果を維持しながら、コストを抑制する施策領域
	絞込み (重要度低/重要性減)	【Ⅶ】 内容の見直しを図りつつ、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅷ】 内容の見直しを図りつつ、コストは現状維持すべき施策領域	【Ⅸ】 内容の見直しを図り、コストを抑制すべき施策領域

図表4 施策実施方針の9モデル

(3) 満足度・重要度の考え方

① 加重平均による指数化の実施

市民意識調査における満足度・重要度については、5段階で数値化しています。

それぞれに価値（=加重）を与え、平均をとることで、質問項目の回答結果全体の偏りを補正します。

回答内容	満足 重要	やや満足 やや重要	やや不満 あまり重要でない	不満 重要でない	わからない	無回答
加重 (ポイント)	+2	+1	-1	-2	0	母数から除外

図表5 加重平均に用いる数値

② 加重平均のメリット～回答全体の数値化

単純に、満足（満足・やや満足）・不満（やや不満・不満）の比率を取り上げるだけでは、回答全体のバランスを示すことができません。しかし、それぞれの回答に価値（=加重）を与えることで、満足・不満の軽重の度合いを反映し、回答全体の偏りを補正することができ、回答結果の適切な比較が可能となります。

【事例】

	満足 重要	やや満足 やや重要	やや不満 あまり重要でない	不満 重要でない	わから ない	無回答	計
設問1	10人	50人	20人	10人	10人	20人	120人
設問2	20人	40人	20人	10人	10人	20人	120人
設問3	10人	50人	20人	20人	10人	10人	120人

ある3つの設問について、回答の内訳が上表のようになった場合、各設問の満足度及び加重平均値は次のようになります。単純に満足度を回答者数で割った数値が一緒であっても、加重平均値は、それぞれに違う数値であることがわかります。

	単純平均 (%)		加重平均値 (ポイント)	
設問1	$(10+50) \div 120$	50.0	$(10 \times 2 + 50 - 20 - 10 \times 2) \div (120 - 20)$	0.30
設問2	$(20+40) \div 120$	50.0	$(20 \times 2 + 40 - 20 - 10 \times 2) \div (120 - 20)$	0.40
設問3	$(10+50) \div 120$	50.0	$(10 \times 2 + 50 - 20 - 20 \times 2) \div (120 - 10)$	0.09

③ 3段階評価の判定基準

本評価では、満足度・重要度ポイントの全体平均(令和3年度は満足度 0.02 / 重要度 1.10) の±0.10 の範囲内にあるものは「中 (ほぼ平均)」と評価し、平均対比 0.10 ポイント以上高い/低いものを「高 (平均を上回っている) / 低 (平均を下回っている)」と3段階評価しています。

項目	年度	低 (平均を下回っている)	中 (ほぼ平均)	高 (平均を上回っている)
満足度	平成 27 年度	-0.15 以下	-0.15 ~ (-0.05) ~ 0.05	0.05 以上
	平成 29 年度	-0.09 以下	-0.09 ~ (0.01) ~ 0.11	0.11 以上
	令和 3 年度	-0.08 以下	-0.08 ~ (0.02) ~ 0.12	0.12 以上
重要度	平成 27 年度	0.95 以下	0.95 ~ (1.05) ~ 1.15	1.15 以上
	平成 29 年度	1.02 以下	1.02 ~ (1.12) ~ 1.22	1.22 以上
	令和 3 年度	1.00 以下	1.00 ~ (1.10) ~ 1.20	1.20 以上

図表 6 満足度・重要度の3段階評価の判定基準

3. 評価の活用

(1) 施策評価結果を踏まえた予算の適正配分

施策評価制度は、PDCAサイクルの一部であり、評価結果を予算編成や次の総合計画の見直しに反映させていくことが必要です。

施策評価結果に基づき、特に拡充、重点化を図るべき施策分野を特定するとともに、「施策実施コストの方向性」で「効率化」と評価した施策については、予算を原則縮減とするなど、予算編成における資源の適正配分に活用します。

(2) 総合計画との連携

施策評価は総合計画の施策の達成度を把握するという進行管理の役割を担っています。評価結果は前述のとおり予算の適正配分に反映させるとともに、次の総合計画の見直しや策定に、効果的に活用していく必要があります。

(3) 事務事業評価との連携

施策評価において「施策実施コストの方向性」を「効率化」と評価した施策に属する事業については、予算の縮減に際して事業の見直しを伴うこととなります。これらの事業のうち、総合評価に基づき特に見直しが必要であると認められる事業については、事務事業評価を活用して事業担当課以外の客観的な評価を行うなど、効果的な見直しを行うとともに、着実な進行管理を行います。

4. 施策評価シートの内容について

施策評価シートへの記載方法

【施策の概要】

		作成課長【1】	
		主管課(関係課)【2】	
施策No【3】	施策名【4】	分野【5】	まちづくりの方向性【6】
施策	施策の目標【7】		
	第2次総合計画・後期基本計画に記載されている内容を記載		
	施策全体の課題【8】		
	第2次総合計画・後期基本計画に記載されている内容を記載		
	留意すべき点(国都などの制度の変化・社会環境の変化・その他制約条件)【9】		
第2次総合計画・後期基本計画策定後から評価年度の間における制度、社会状況の変化など事実に関することを記載			

【施策の成果】

※()付の実績値及び達成率は新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられます。

			年度	28	29	30	元	2	3	
成果指標【10】※	指標1	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	指標2	名称	目標値				単位			
		説明	第2次総合計画・後期基本計画に掲載されている内容のうち、次の内容を記載 ◇名称：施策の成果を示す指標名 ◇説明：指標設定の理由、目標の根拠 ◇目標値：令和5年度目標値 ◇実績値：指標に対応する実績値 ◇達成率：目標に対する実績値の割合							
	指標3	名称	目標値				単位			
		説明								
	指標4	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	指標5	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	指標6	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	指標7	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	指標8	名称	目標値				単位			
		説明	実績値							
			達成率							
	達成率の平均値									

【市民意見】【11】

平成27年度		平成29年度		令和3年度	
満足度(%)		満足度(%)		満足度(%)	
満足度 (平均ポイント)		満足度 (平均ポイント)		満足度 (平均ポイント)	
重要度(%)		重要度(%)		重要度(%)	
重要度 (平均ポイント)		重要度 (平均ポイント)		重要度 (平均ポイント)	

市民意識調査において、当該施策に関する分野の満足している（重要と思っている）人の割合
平均ポイントは、満足度（重要度）をポイント換算して数値化したもの

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【10】 成果指標の達成率と事業の推進状況を勘案して判定

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【12】 <input type="checkbox"/> まだ未達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る 意識調査での満足度【13】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	[19]へ
施策の成果と課題 (取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等) 【14】		これまで施策を実施してきたことの成果について「事実」と施策主管課として判断した「課題」についてを記載 【9】 留意すべき点を踏まえて、情勢の変化を判定。基準は第2次総合計画後期基本計画策定時と比較 【11】 市民意見の当該施策の満足度や重要度の平均値と全ての施策の満足度の平均を基に±0.1ポイントの範囲内を基準に判定	
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【15】 <input type="checkbox"/> 弱くなっている <input type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている 意識調査での重要度【16】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	[18]へ
今後の方針 (具体的な事務事業を示しながら)【17】		【14】 施策の成果と課題や【9】 留意すべき点などを勘案し、施策主管課としての「今後の方針」を記載	
総合評価	施策内容の方向性【18】 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み	[15][16]より	
	施策実施コストの方向性【19】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化	[12][13]より	
	施策実施方針【20】	【18】 施策内容の方向性と【19】 施策実施コストの方向性をかけあわせて9モデルのうちから判定	

【一次評価後の事情変更等】

説明【21】	一次評価後から行革本部評価の間における社会状況の変化や相当の事情変更などに関することを記載
--------	---

【行革本部評価】

総合評価	施策内容の方向性【22】 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み
	施策実施コストの方向性【23】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化
	判断理由等【24】
	施策実施方針【25】

【施策内の主要事務事業貢献度判定】

名称【26】	担当課【27】	概要【28】
<p>第2次総合計画 後期基本計画に掲載 されている「主要事 務事業」を記載</p>	<p>事務事業の担当 課名称を記載</p>	<p>事務事業の目的、実施方法等の事業概要を簡潔に記載</p>
<p>事業の合計</p>		

総コスト(千円) : 評価年度【29】		事業費	人件費	事務事業 の評価 (直近) 【30】	施策における位置付け【31】	貢献度 【32】
事業費： 令和4年度の予算額を記載 人件費： 事業の所要人員×令和3 年度（評価実施前年度） 平均給与＋会計年度任用 職員賃金等 ※当該事務事業が他の事 務事業で実施している場 合は「（事業名）で実施」 と記載		当該事務事業又は関連する事業の直近 の事務事業評価結果を記載		施策目標の達成に向けて、当該事務事業 がどのような点で貢献しているか、どの ような効果が見込まれるかについて、事 業目的などを参考に簡潔に記載		当該事務事業の施策 目標への貢献度 を3段階で判定し 記載